

第36回 土光杯全日本青年弁論大会

テーマ
令和新時代の日本人像

講評

審査委員長

拓殖大学学事顧問
渡辺利夫氏

「あなた自身の言葉」が重要

令和の新しい時代を迎えたが、人口減少は進む一方で、日本が抱える課題は山積している。明るい未来を描きにくい社会の中で、将来を担う若者がどう切り開いていくのか。第36回土光杯全日本青年弁論大会（フジサンケイグループ主催、積水ハウス特別協賛）が11日（東京・大手町のサンケイプラザホールで開かれ、10人の弁士が熱弁を振るった。大会のテーマは「令和新時代の日本人像」。論文審査を勝ち抜いた10人のうち、最優秀賞の土光杯、優秀賞の産経新聞社杯、フジテレビ杯、ニッポン放送杯、故土光敏夫氏の出身地、岡山県にちなみた「特別賞岡山賞」に輝いた1人の裏面を紹介する。（要旨略）

講評 審査委員長 渡辺利夫氏 「あなた自身の言葉」が重要

新時代の日本人像を若者の立場から、「あなた自身の言葉」で提言してもらいたい、これが今回のキーワードです。

全ての登壇者が自分自身の言葉で語ってくれたと感じました。でも、パブリックな場で自分を表現する場合には、お互い注意したいことがいくつかあります。

1つ目は自分自身の言葉で語ること。2つ目は自己確認の必要性です。このグローバリズムの時代、SNSの時代、ついに自己を確認し続けなければ、自分が寄る辺のない存在になってしまいます。そういう危機意識が今日のいくつかのスピーチの中にも反映されていて、心強く思いました。

3つ目は自己相対化。自分の顔は自分には見えませんよね。鏡で初めて私どもは、自分が何者であるかを確認しているわけです。日本人が何者かは、日本人にはあまりよく分からない。日本が何者は、日本を朝鮮や中国、アメリカなどに投影してみて、そうして確認できるのです。自己を相対化しが、「あなた自身の言葉で語つて初めて民族や自國について確認ください」。改めてそのことの重



審査委員

渡辺利夫（拓殖大学学事顧問） ▷ 中静敬一郎（岡山放送社長） ▷ 平野啓子（語り部・かたりすと、大阪芸術大学教授）
▷ 高城奈海（ジャーナリスト・俳優） ▷ 山口真（フジテレビジョン報道局長） ▷ 桜井達也（ニッポン放送報道部長） ▷ 乾正人（産経新聞社論説委員長）
=敬称略



土光杯全日本青年弁論大会
行政改革に大きな足跡を残した故土光敏夫臨時行政調査会長の「行革の実行には若い力が必要」との呼びかけに応じてフジサンケイグループが昭和60年に創設。テーマはその後、拡大され、日本の将来を担う若者の主張の場として毎年開催される。